奈良山通信

供養する心の多様性

便利な世の中になったもんだ、この原稿依頼を受けた時私は、鳥取県の山の中でシカ調査をしていた。折しも世間では、クマの大量出没が世間を賑わしていた。マスメディアではやたらと「異常出没」という言葉を使いたがる。

果たして異常なのか？人間か？野生動物か？

人間にとっては、一大事な出来事でも、悠久の歴史の中では、幾度となく繰り返されてきた当たり前の出来事なのかもしれない。

その頃、名古屋では、生物多様性締約国会議（COP10）が開催されていた。

どうせ、地球温暖化対策の会議のように、各国の代表者が机上の理論を話合うつまらないものだろうと思いつつも、やはり気になってテレビ中継を見てみると、生き物の話題に追いやられ、生物資源の権利を原産国は開発国で奪い合っている映像が流れ、ガッカリさせられた。

生物多様性の本質は、多種多様な生き物が複雑に係わり合って、現在の生物界（もちろん人間も）を創っているので、世の中に必要のない生き物はいないということである。私は考える。

現在の人間社会に置き換えれば、これだけ多種多様な価値観の人が溢れているが、他人の価値観を否定するのではなく、これも人間の多様性だと認めるくらいの寛容な考え方を持たなくてはいけないと思い出させてくれる。

生物多様性の重要性が注目されている今、人を来た事は、供養する心の多様性を認めることにも繋がる事を期待したい。

ひいては、生きている人の心の安らぎにも繋がる事を期待したい。

奈良山管理組合　野生動物の生態調査事務所　代表　宮本　大右